

# 群馬県総合教育センター 幼児教育センター ぐんま幼児教育センターだより

第45号 令和5年3月

「ぐんま幼児教育センターだより45号」をお届けします。

- 1ページ：令和4年度研修講座実施報告
- 2ページ：夕やけ保育研修会、保育アドバイザー派遣事業実施報告
- 3ページ：令和5年度の研修について
- 4ページ：調査研究事業「保育者の指導力向上に向けた支援」

## 今年度の研修を振り返って

令和4年度の研修が終了しました。今年度も多くの講座をオンラインで実施しましたが、無事全ての講座を行うことができました。受講される方や所属園等、また市町村教育委員会の皆様に、機器の準備や研修場所の提供など、ご協力いただいたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 令和4年度 研修講座 実施報告

講座コード	講座名	総日数	研修形態・日数
1010	幼稚園等新規採用教員研修	10日	集合研修：3日 オンライン研修：7日
1210	幼稚園等3年目経験者研修	2日	オンライン研修：2日
1410	幼稚園等5年経験者研修	3日	オンライン研修：3日
1610	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	8日	集合研修：2日 オンライン研修：6日
2010	新任幼稚園等園長研修	2日	集合研修：2日
2050	新任幼稚園等副園長・教頭研修	1日	集合研修：1日
3290	幼児教育研修講座	1日	オンライン研修：1日

令和4年度を受講者の感想等は、前号に掲載いたしました。移動の負担の少なさや、オンライン上でも充実したグループ協議が行えたことなどから、オンライン研修に対する肯定的な感想が多数寄せられました。それらのご意見を参考にして、令和5年度の研修講座を企画中です。詳しくは、3ページをご覧ください。

連絡先 群馬県総合教育センター 幼児教育センター

TEL：0270-26-9203 FAX：0270-26-9222

E-mail：youji@edu-g.gsn.ed.jp

# 令和4年度 夕やけ保育研修会 実施報告

今年度は、オンラインで6回の研修を行いました。参加者同士がテーマに沿って語り合う場を設けたり、講師の先生をお招きして講演会を行ったりと、様々な形態で研修会を実施することができました。6回の研修会で、のべ140名ほどの先生方に参加していただくことができました。今回は、10月以降に実施した研修会について報告します。

## 特別講演会

12/26 (月)  
川田 学 氏  
「個人を尊重しつつ、  
『つながり』を育む  
保育の役割」

- ・子供の姿を中心においてずっと考えていくことが深い幼児理解につながると思った。どうしても、経験や類似体験、大人の思いから偏った眼鏡で見えてしまうこともあるが、「どういうことなのかな？」と大人が好奇心をもって入っていく、関わっていくことが大切だと改めて感じた。
- ・人や環境との関係性という新たな視点からのお話を聞くことができ、とても参考になり、「主体性とは？」について自分の言葉でちゃんと伝えられる人でありたいと思った。また、最後は教師としての人間性や豊かさに尽きるのだろうと思った。

## 発達の理解

11/15 (火)  
十枝 はるか 氏  
「気になる幼児の  
理解と対応」  
～ティーチャー・トレー  
ニングをとおして～

- ・ティーチャートレーニングの大切さを実感した。保育者同士のスキルの交換ができるというのは、今、保育者たちにとって、とても必要なことだと思った。
- ・自分の保育を振り返ること 同じ子供と向き合う先生方と共有したり気付き合う事の大切さを改めて考えた。
- ・行動観察シートの発表を通して、他の先生方の意見を聞くことができ、自分の気付かない部分に気付くことができた。今後、行動観察シートの活用を積極的に行い、プラスの循環につなげていきたい。

## くっちゃんべり亭

10/26 (水)  
テーマ：みんなで語  
ろう (教材研究)

- ・他の先生方の実践やエピソードを聞いたり、そこに至る経緯や先生方の意図、思いを聞いたりすることができて、とても学びになった。まずは引き出しがたくさんほしいと思っていたので、アイデアやエピソードを聞いたことが本当にありがたかった。ここから自分なりに活用して、保育の幅を広げ、質も上げたいと思う。
- ・教材のことについては、ペットボトルや牛乳パック、水や氷など身近な素材を保育に取り入れていくことで、子供たちが興味をもち、考え、遊びを発展させていくのだと改めて感じる事ができた。子供たちの可能性を広げられるようなよい教材を見付けたり提供したりできるよう、子供と同じくらい保育者は発想や想像を柔軟に豊かにしておくことが大切だと感じた。

# 令和4年度 保育アドバイザー派遣事業 実施報告

幼児教育センターでは、幼児期の教育や家庭教育の充実を目指し、保育所、認定こども園、幼稚園、学校、公民館等で行う講演会や研修会、保護者会に、保育や教育の専門家である「保育アドバイザー」を講師として派遣しています。今年度受講された方からの感想を掲載します。

- ・コロナ禍の中、保護者なら皆抱えているであろう孤独感や不安感を明るく一掃してくれる講演会でした。実践を踏まえて、具体的なアドバイスをしてくださり、保護者一人一人の心に明かりを灯してくださいました。本当に素晴らしい講演会でした。  
(テーマ：「コロナ禍での子育てについて」)
- ・小学校就学まであと半年という時期の、保護者の不安な気持ちを払拭し、明るく前向きな気持ちになれる内容でした。学校からこの時期の保護者にぜひ伝えておきたかったと思う内容でした。  
(テーマ：「小学校生活のスタートにあたって」)
- ・一人一人の保育者に向け、温かく語りかける口調での素晴らしいご講演でした。子供の特性や脳に関わる要因等、子供をきちんと理解するためのノウハウや適切な対応の仕方についての専門的で広い視野からのお話が、受講した保育者の心の中に深く浸透しました。  
(テーマ：「気になる子供の理解と支援」)
- ・事前にお渡しした質問に対して、たくさんの資料や教材を用意し、とても分かりやすく答えていただきました。柔軟でありながらまっすぐな先生の人間性に触れ、私たちの目標になりました。  
(テーマ：「働きやすい職場、やる気のある職場づくり」)

# 令和5年度の研修について

## <研修講座>

令和5年度は、現在のところ、以下のような予定です。（今後、変更する可能性もあります。）詳しくは、群馬県総合教育センターWebページに3月末にアップ予定の「令和5年度研修講座案内」をご覧ください。

講座コード	講座名	総日数	研修形態・日数	備考
1010	幼稚園等新規採用教員研修	10日	集合研修：3日 オンライン研修：7日	
1210	幼稚園等3年目経験者研修	2日	オンライン研修：2日	
1410	幼稚園等5年経験者研修	3日	オンライン研修：3日	
1610	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	8日	集合研修：2日 オンライン研修：6日	
2010	新任幼稚園等園長研修	2日	集合研修：2日	2日目は午後のみ
2050	新任幼稚園等副園長・教頭研修	1日	集合研修：1日	
3290	幼児教育研修講座	1日	オンライン研修：1日	午後のみ

「幼児教育研修講座」は、以下のテーマで行う予定です。

**テーマ：乳幼児期の教育及び保育の充実に向けた取組の工夫**

## <夕やけ保育研修会>

令和5年度も、オンラインでの研修を企画しております。詳しくは、次号でお知らせいたします。お楽しみに！

令和5年度の夕やけ保育研修会も、講師の先生をお迎えしての講義のほか、参加者の皆さんが、気軽に語り合うことができるような研修会を企画中です！  
コロナ禍で、近隣の園であっても、顔を合わせて話す機会が少なくなっています。  
保育に関して、他園の様子や情報を知りたい、悩みを聞いてほしい、という方は是非ご参加を！！



# 「保育者の指導力向上に向けた支援」

幼児教育センターでは上記の研究テーマにせまるため、研修講座資料作成の過程や受講者とのやり取り、保育アドバイザー派遣事業の成果等を基に研究を重ね、次の項目でまとめを行いました。詳しい内容は、**3月下旬にWebページへ掲載**いたします。

ぜひお手にとっていただきまして、御活用くださいますようお願いいたします。

## 目的

環境に関わり遊ぶことを通して、幼児に「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を育てていくための幼児教育施設における指導の改善方法を提案し、保育者を支援する。

1. 幼児期の教育とは
  - ① 幼児期の教育における見方・考え方
  - ② 環境を通して行う教育
  - ③ 「発達」をどう捉えるか
  - ④ 「遊び」とは
2. 幼児期の教育はどのような“しくみ”で構成されているのか
  - ① ねらい・内容・環境の構成の関係性
  - ② 指導計画と保育の実際
3. 幼児理解を深めるためにICTをどのように活用するのか
  - ① ドキュメンテーション：写真・音声入力による保育記録と保護者支援
  - ② 保育カンファレンス：写真によるエピソード提供と効果的な運営
4. 「遊ぶ」「生活する」ことは幼児にとってどのような意味があるのか
  - ① 行事との関係
  - ② 文字・運動・音楽・製作等との関係
5. 環境としての保育者の存在は幼児の発達にどのような影響を与えるのか
  - ① 潜在的カリキュラム
  - ② 同僚性



本研究は、幼児期の教育に携わる仕事をされている方や興味・関心をもたれている方に向けて書きました。しかし、あえて「幼児期の教育とは」から始めています。これは日常の多忙さで、そもそも何を目指して幼児期の教育に携わっていたのかが曖昧になるのを防ぎ、保育者皆様の念頭に常に置いていただくことが、本研究目的を達成するための近道であると考えたからです。「5領域のねらいと内容」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係性を確認した際は、「5領域のねらいと内容」を教育課程・指導計画に反映し保育をすれば、結果的に幼児期に育みたい資質・能力が育まれ、具体的な姿として幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が現れると書きました。しかし、教育課程や指導計画、保育者の思考のなかに、幼児を主語にしたストーリー（幼児と共に生活しながら、幼児の姿に即して具体的に育ちを理解すること）が存在していなければ、本研究目的に掲げた「環境に関わり遊ぶことを通して、幼児に『知識及び技能の基礎』『思考力・判断力・表現力等の基礎』『学びに向かう力、人間性等』を育てていくための幼児教育施設における指導」を実現することは難しいと考えます。そのような場合には本研究を参考にいただきながら、教育課程・指導計画の改善と園全体の意識改革に取り組んでいただければと思います。

さらに、幼児期の教育の“しくみ”、ICTの活用、遊ぶ・生活することの意味、保育者が幼児の発達に与える影響について御理解いただき、実践や園運営に活用いただければ、「保育の質の向上」と「働き方改革」が相互に影響し合って、“おもしろい”保育が展開されるでしょう。

いつのまにか多忙感が少なくなり、多幸感がたくさん得られることを願っています。